

2020年1月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 1月えんだより

1月聖句 「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしには  
すべてが可能です。」 <フィリピの信徒への手紙 4章 13節>

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。感謝を申し上げます。  
新しい年も引き続きご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。年末年始は、ご家族で  
ゆっくりとした時を持つことができましたでしょうか？お仕事の方もおられますが、皆様にとって  
新しい年が実り豊かな日々でありますように心よりお祈りいたします。

さて、12月はクリスマス、1月はお正月と、にぎやかできらびやかな時を過ごしますが、毎年この  
時期は、ご経験をされた方も多いかと思いますが、25年前の阪神淡路大震災を思い出します、特に震災  
直後のことは鮮明に思い返されます。出会う人々の優しさに触れ、人はこんな温かい存在なのだと感じた  
事を覚えています。当時の勤務先であった長田区のYMCAに向かい、火事で炎に包まれる町や変わり  
果てて倒壊した家々を横目にしながら、バイクを走らせ、避難所となる小学校や体育館に行くと、出会う  
人々は「大丈夫だった？」「着るものはある？」「家族は？」と温かい言葉をかけあう光景がいたるところ  
でみられ、家から持って出た食べ物を見ず知らずの方々と分け合い、余震の中で不安しか感じない中で  
共に助け合う姿は、これからいつまでも語り継いでいきたいと思えます。特に震災後の3日間で出会った  
人々に、弱い私は、足るを知ることや、その姿に生きる強さをも教えられたと感じます。

大正、昭和の社会運動家で牧師の賀川豊彦氏は、関東大震災の翌日、船に沢山の物資を積み込み、神戸  
の港から被災地に向かいました。豊彦氏は、当会とも関係が深く、「死線を越えて」という本がベスト  
セラーとなり、印税で手にした全ての財産を福祉事業や救済事業に捧げ、現在の生活協同組合や農業協同  
組合の設立を果たすのですが、彼は常に慎ましい生活を続けたのです、妻ハル氏は、そんな豊彦氏に  
不平・不満を言わずに賀川氏の働きを支えたのでした。「わたしを強くしてくださる方のお陰で、私は  
全てが可能である。」と言えるのは 自己的努力や心の持ちようにあるのではなく、「我が恵み汝に足れ  
り」と聖句にあるように、神様と共に歩むことにより可能であるといえます。今年も乳幼児保育・  
教育を開始して50年の節目を迎えます。設立から変わらぬ、神様の教えと共に歩むことを確認しながら  
未来を見つめ歩みはじめたいと思えます。

年主題 『ことばに満たされて～ひびきあう～』

1月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	できたよ	取り組む
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>*手や指を十分に使って遊ぶ</li> <li>*自分でできるという気持ちや、したいという意欲をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*神さまが与えてくださっている賜物を互いにかして生活する</li> <li>*健康に過ごすための生活習慣を身につける</li> <li>*友だちと思いや考えを伝え合いながら遊びを深める</li> </ul>
讃美歌	ちいさいおててに	やさしいめが こども改 114